

洪水ハザードマップ

基本は立ち退き避難、次に緊急時の屋内安全確保（在宅避難）

風水害での避難行動では、災害が発生する前に危険性がある場所から避難する「立ち退き避難」が基本です。

しかし、「立ち退き避難」を行う余裕がない場合や、悪天候などにより外出することが危険な場合は、「屋内安全確保」で身体と命を守りましょう。

避難情報が発令されていなくても、
その場に留まると危険と判断したら、
自主的に立ち退き避難を開始してください。

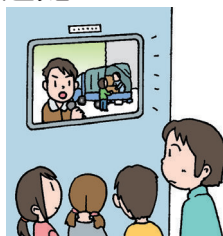


水害発生時 避難の注意点

■ 正確な情報収集と自主的避難

ラジオやテレビ・携帯電話を利用し、最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。

雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



■ 避難の前に確認

避難する前に、ガス、電気、火の元を点検しましょう。

避難場所を確認し、途中で家族が離散したときの行動も決めておきましょう。



■ 水面下の危険にも注意

避難の際は、できる限り高さのある道路を通るようにしましょう。

浸水場所では、側溝やふたがはずれたマンホールなどに注意しましょう。



■ 車での避難は避ける

車での避難は緊急車両の通行を妨げますので、特別の場合を除きやめましょう。

また、車を堤防や道路に放置すると、水防活動の妨げになりますので、やめましょう。



■ 避難の呼びかけに注意

危険が迫ったときには、市や消防団から避難の呼びかけをします。

その場合には、速やかに避難してください。



■ 動きやすい服装で、2人以上での避難

避難するときは、動きやすい服装で、2人以上での行動を心がけましょう。

できる限り単独での避難は避け、近所で声をかけ合って避難しましょう。



■ 逃げ遅れたら高い建物に避難

万一、逃げ遅れて避難場所まで行く余裕が無い場合は、近くの丈夫な建物の3階以上に避難して救助を待ちましょう。

建物の2階部分でも場所によっては危険な場合があります。



■ 地下道・アンダーパスの通行は避ける

地下道やアンダーパスは、浸水時などに水深が深くなると予想されます。これらの道は避けて避難行動をとることが必要です。

